

平成 28 年度 家族向け失語症講座報告(東部地区)

1.日時：2016 年 10 月 15 日（土）、13:00～14:40

（当センターの行事「ふれあい広場」の一環として、静岡県言語聴覚士会と合同開催）

2.場所：中伊豆リハビリテーションセンター 4F 訓練室

3.参加者：患者様 15 名、ご家族 11 名（計 26 名）。

4.患者様内訳：入院患者、センター退院された方（在宅）、外来ST利用者、訪問ST利用者、福祉部通所利用者、福祉部入所者など。

5.当日参加ST：阿部、杉山、京田、小林、田中

6.ボランティア(県士会からの参加)：渡辺、東江、岡林、藤田
(福祉部実習生)石田

7.当日集合時間：12 時 00 分。ボランティアの方に 10 分程、事前説明（本日の流れ、参加者の簡単なプロフィール、注意点など）と交通費精算を行った。

8.タイムスケジュール

13:00～13:10 交流会開始、自己紹介

13:10～14:00 失語症講座

14:00～14:30 交流会

14:30～14:40 アンケート記入、終了

9.当日のながれ

1) 自己紹介

- ・参加者 1 名ずつ、マイクを通して自己紹介をした。
- ・発語失行の方には、口形を呈示したり、名前の語頭音ヒントを斉唱するなどのサポートを行った。

2) 失語症講座：全体を対象とした講義（10 分）後に、家族むけ講座を実施。

講師：杉山実優



3) 交流会（失語症の重症度・年齢・目標等を考慮し、3グループに分けた）
（各グループにSTが入り、司会やサポート役を務めた）

Aグループ（軽度）：話題は回復期退院後の生活、復職について。

・外見からは失語症や軽度の身体麻痺があることは分かりにくい。退院後、自営業の仕事を再開したが、作業に集中すると疲れてしまう。ゆっくり仕事をしていると、足手まといになってしまうかなど不安になる。また電話の対応、書字が難しい。会話では喚語困難が気になる。生活や仕事での苦労や、疲れ易いことは脳梗塞を体験した人でないと分からない。ここ（セター）に来るとほっとする、みんなそうなんだと。（Aさん）

・病前は教員であり、話すことが好きだったが、失語症の影響で、好きな会話がしにくい。失語症者の居場所、安心して話せる環境が欲しい。（Bさんの妻）



Bグループ（中等度、40代の参加者が多い）

・話題は外出、好きな食べ物、趣味、さわらびでの生活（就労支援を目指した入所）、在宅生活とリハビリ、言語訓練、携帯電話でメールや言葉を検索する方法等について。参加者同士、質問したり教えあったりして相互のコミュニケーションが行われていた。STからは、場所が分からない時や人に依頼する時はメモやコミュニケーションノートを活用しましょう、と助言があった。



Cグループ（中等度～重度）

・回復期退院後在宅で生活を過ごしているご家族から、現在入院中の本人とご家族に向けて、励ましや助言があった。重度の失語症であるが、訪問STの勧めで、左手で描画をするようになったと。今回の「ふれあい広場」で絵画の展示会が行われた。言語障害、コミュニケーション、自宅での生活について聞くことができ良かったと（現在夫が入院中の妻より）。



・ボランティアSTが、本人のメモを見ながら表出を引き出していた。

4) 歌唱、閉会の挨拶

- 各グループごとに、記念写真を撮影。
- 歌唱：富士の山を全員で歌い、閉会の挨拶にて終了。
- 退場時に、アンケート回収した。



5. 活動振り返り

福祉部、在宅、入院中の方など、患者様とご家族計約 30 名の方が参加された。

「ふれあい広場」というセンター全体の行事の一環であり、気軽に参加し易い環境であった。アンケートでは、今回の会で交流できた、次の機会があれば参加したいという意見が多く、概ね好印象であった。今回の交流会で「地域住民の利益に貢献する活動」「失語症者の社会参加」という目的を達成することができた。

6. アンケート

- 1) 内容は満足できるものだったか
- 2) どのような点でそう感じたか
- 3) 交流会に参加したいと思えますか
- 4) どのような点でそう感じたか
- 5) 感想や質問・ご意見などご自由にお書き下さい

以上(文責田中)